

No.29 庄屋の蔵

本館と倉庫の北には元々山形市にあった後藤又兵衛旅館の復元された米蔵がある。この2階建ての建物は現在、お姫様のおもちゃ、櫛、結婚式の着物など、精巧で美しい江戸時代（1603年-1868年）の物品を展示するために使用されている。当時、京都で織られた着物は、現在の最高級の織り手でも展示された着物に込まれた金細工を再現することができなかったという。二階にはさらに素晴らしい工芸品が展示されている。

階段の段差も独特である。伝統的な2階建ての日本の建物では、食器棚が階段に組み込まれているのが一般的で、食器棚は横から取り出すのではなく、階段のフラットな部分を直接開くようになっている。2階には、着物の帯の小袋に取り付けるために使用された120以上の象牙の彫刻された根付が展示されている。また、旅館に滞在した有名な詩人が書いた詩や、江戸時代（1603年-1867年）に使われた日本の伝統的な仕掛けの大名時計も展示されている。

屋根を支える主梁は一本の日本赤松が使用されている。赤松は盆栽で見られるように曲がりくねる性質で有名で、この大きさのまっすぐな梁は注目に値する。これはこの旅館を建てた者の富を暗示している。